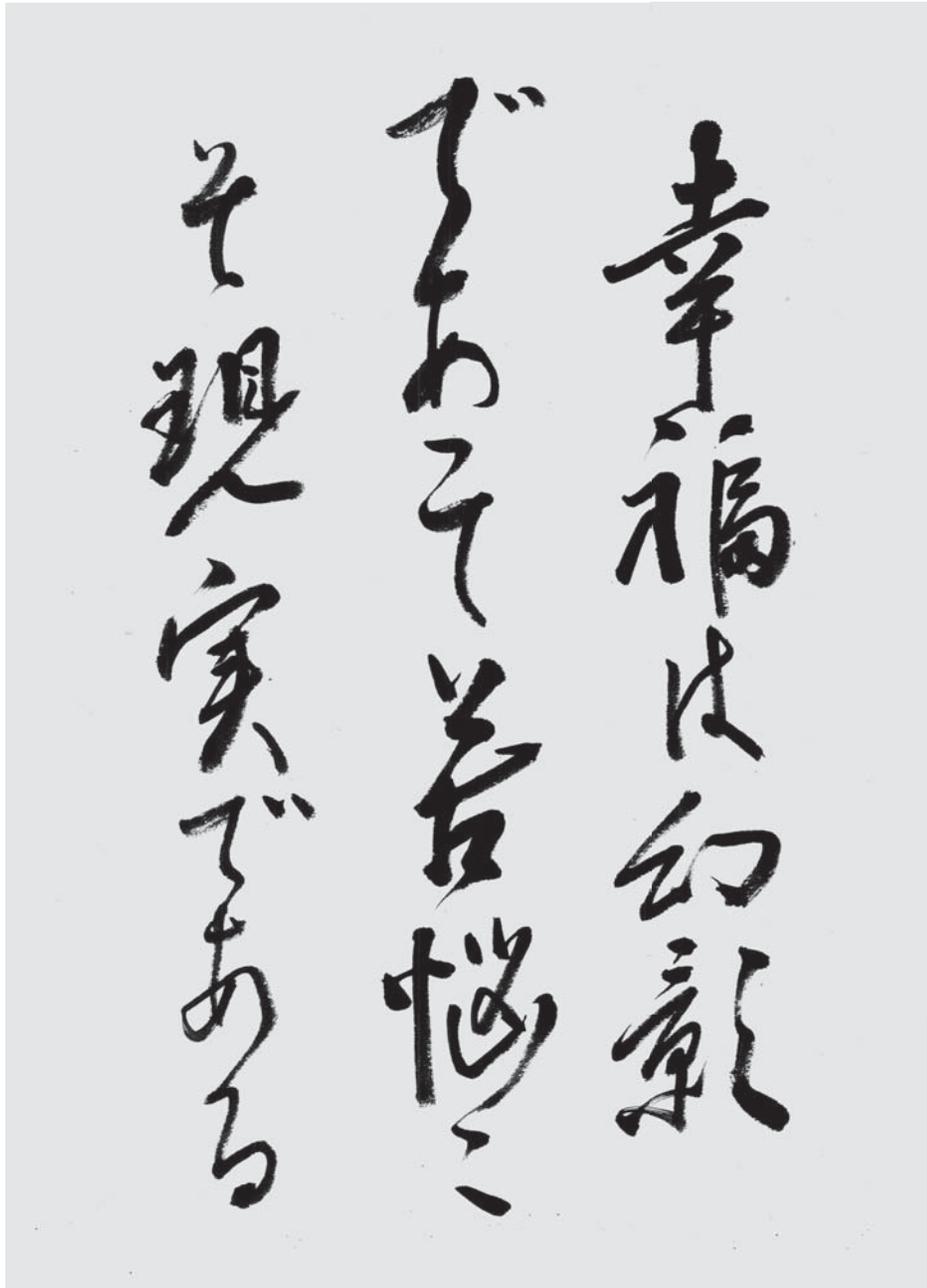


調和体を書く(2)

締切り 二月二十二日(必着)



奥村憲照先生書

回作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 B半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり書」の三つがあります。

◆現代日本の文章表現は全て漢字かな交じり書ですが、ここでは芸術的創作作品を指し、「調和体」「近代詩文」として書道展の一部門を占めています。

◆読める書として近年人気を高めていますが、古典といわれるものがない故に書法はまだ確立しておらず、各団体に新和様・新書芸などのいろいろな呼称で研究が進められています。

◆今回のお手本は、前会長奥村憲照先生が(財)日本書道教育学会に関係していた頃の新和様のお手本です。本誌初登場です。

◆読めてかつ、書格の高い作品を目指して研究してまいります。

〔読み〕

幸福は幻影であって  
苦悩こそ現実である

〔解説〕

①可読性を大切に。

②変体仮名・連綿はなるべく控える。

③構成を工夫してみよう。

※落款(署名・捺印)は、作品の一部としてバランスよく収めて下さい。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

知

識

我

天

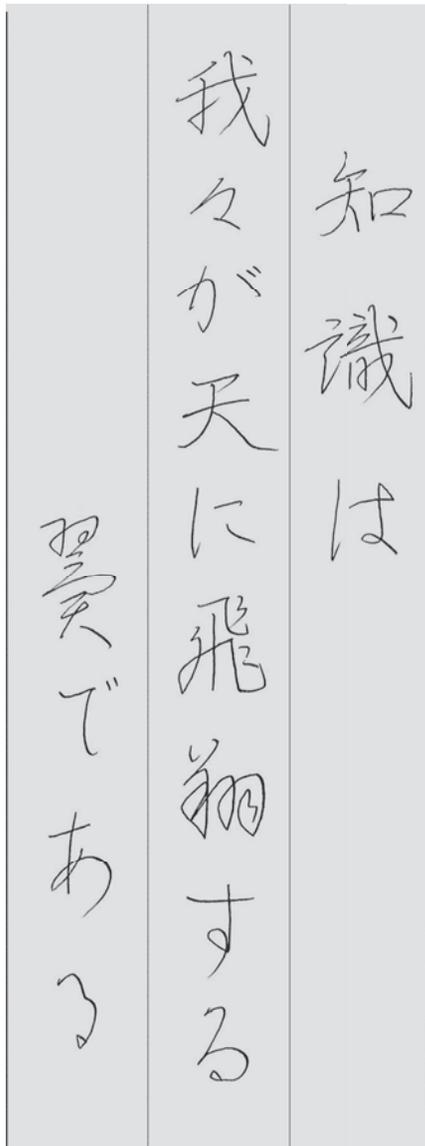
飛

翔

翼

翔  
翼

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。  
◎今月は行草体ですから、字典で好みの字を選び、作品化してみるのも書く楽しみの一つです。構成も工夫してみてください。



おか だ りゅう ほう 書  
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

- ◆3月課題予告(行書)  
善く生きられた生涯は  
人々の追憶の中に  
再びその生涯を生きる
- ▼教範・書範Ⅱ楷書
- ▼師範Ⅱ行草または草書

★知識は：(書体Ⅱ行草または草書)  
シェイクスピア(二五四〜二六六)  
イギリスの劇作家  
大空を自由に飛び回る翼のある鳥の  
ように、知識を自分のものとする事で  
人間は自由を獲得し、知識は遠く高く  
どこまでも人間を連れて行くように論じて  
います。実際に空を飛べるようになって  
たのは三百年も後ですが、彼の心は大  
空を飛び回っていたのでしょうか。

〔解説〕

人

間

歳

共

澄

行

※両課題とも構成は自由です。

		人
	歳	間
澄	と	は
ん	共	
で	に	
行		
く		

おお たに せい じょう 書  
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

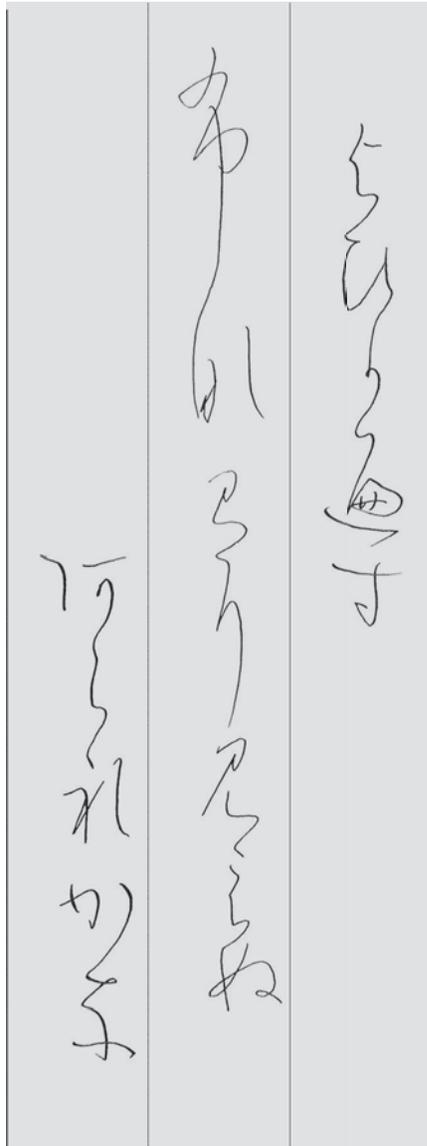
- ◆3月課題予告(楷書)  
私達は  
自然の流儀を  
知る必要がある
- ★人間は：(書体Ⅱ行書)  
河上徹太郎(二五二〜二九〇)  
文芸・音楽評論家  
「澄む」という表現は、河上徹太郎  
の自著、『自然と純粹』の中でも重視  
している至高の人間表現です。  
古来、松尾芭蕉を始めとする多くの  
芸術家も、この「澄む」という境地を  
追及したものと考えられます。私達も  
歳と共に澄んで行きたいものです。

# 一般部かな課題

締切り 2月22日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

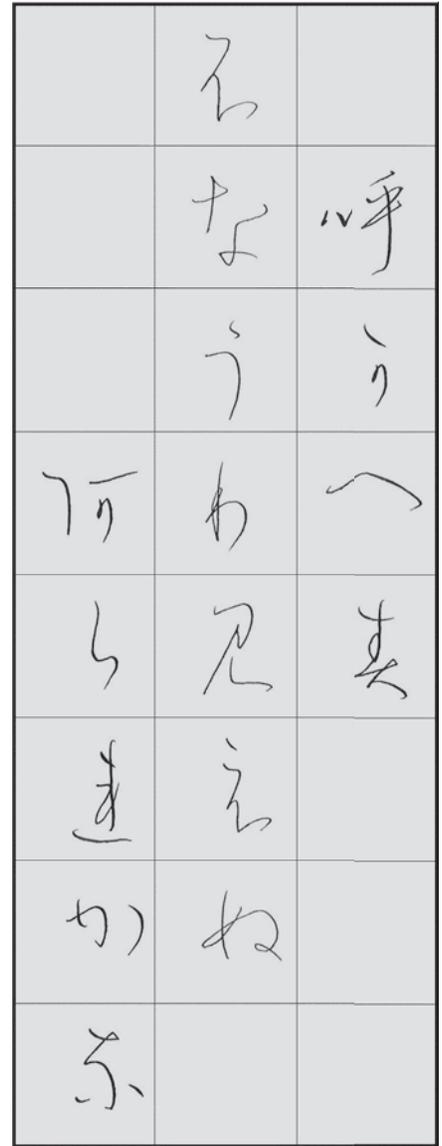


與心可遍寸布那有り  
呼かへす鮒売見えぬ阿禮奈

た なか き こう 書  
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



可  
呼かへす鮒売見えぬ阿連奈

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

た なか き こう 書  
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

呼かへす鮒売見えぬあられかな  
(野沢凡兆)

〔句解〕寒鮒売りが天秤をかついで、家の前を威勢よく通り過ぎて行く。この寒さに声を張り上げて、急いで鍋を下げて門口へ出て見たが、もうそこらにいない。

〔鑑賞〕へあられが利いていて、元気のよいへ鮒売には雪より似つかわしい。曇天にたたずむ客の声と姿を際立たせ、句の表面から主体のへ鮒売を消す効果を凡兆は十分知っていたらう。

〔古筆参考〕

可 か  
呼 呼  
か か  
へ へ  
す す  
鮒 鮒  
売 売  
見 見  
え え  
ぬ ぬ  
阿 阿  
ら 阿  
れ 阿  
か 阿  
な 阿

〔解説〕「連」の横画三本は、方向を少しずつ変えて書き、「か」の二画目、三画目は向かい合うように書く。

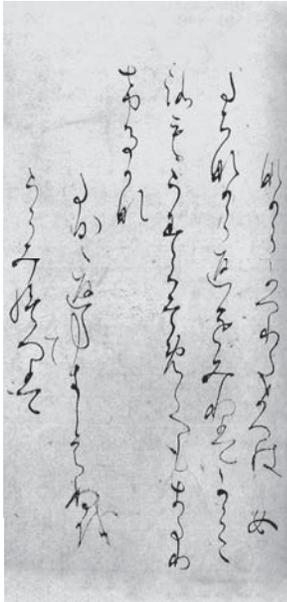
◆3月課題予告

白魚やさながら動く水の色

(小西来山)

〔古筆参考〕

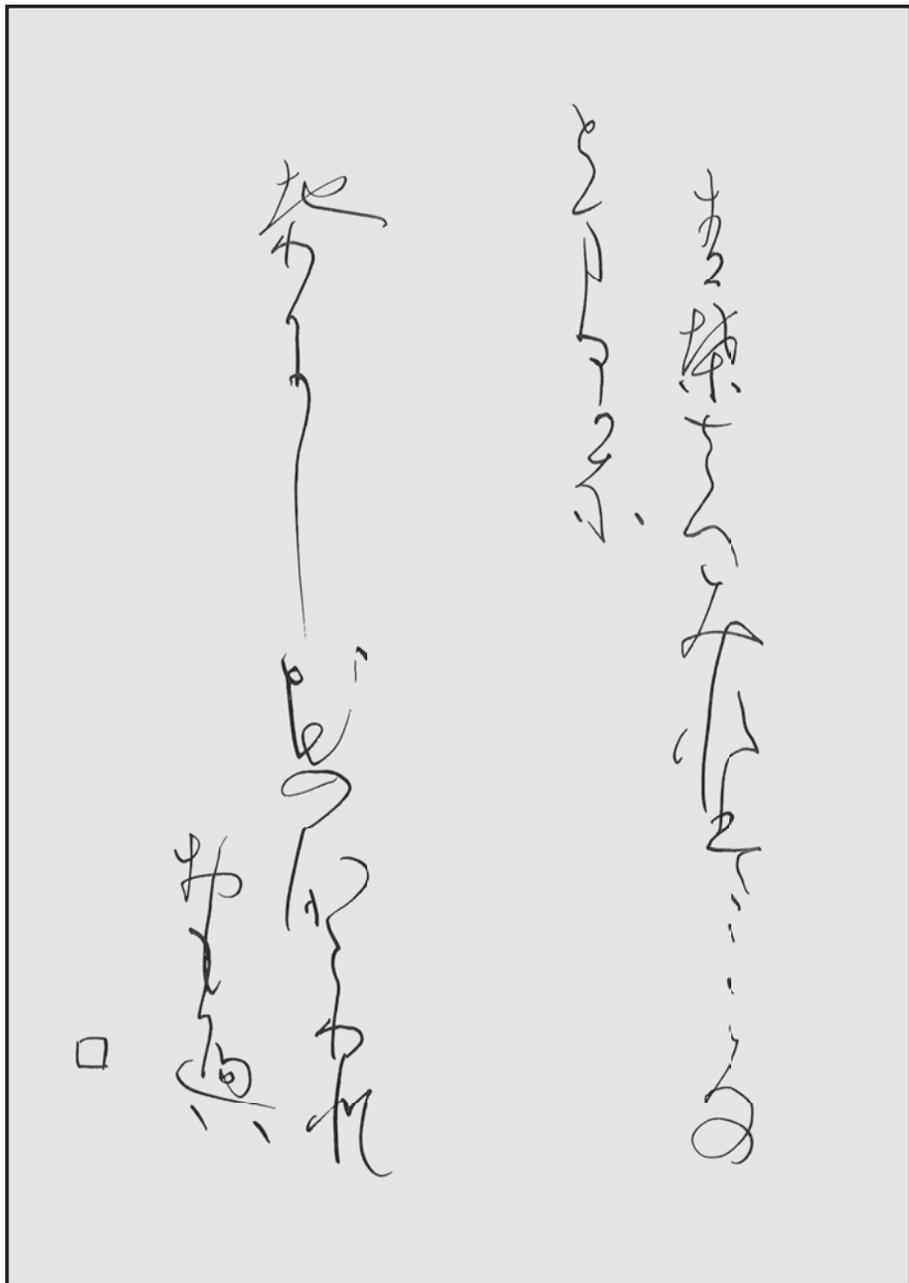
いちじょうせつしょうしゅう  
一条撰政集



な<sup>那</sup>が<sup>可</sup>ら<sup>可</sup>か<sup>可</sup>へ<sup>可</sup>り<sup>利</sup>た<sup>多</sup>ま<sup>多</sup>へ<sup>多</sup>ば、女  
 た<sup>多</sup>ち<sup>多</sup>な<sup>多</sup>が<sup>多</sup>ら<sup>多</sup>返<sup>返</sup>を<sup>を</sup>み<sup>み</sup>れ<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>こ  
 ろ<sup>路</sup>も<sup>毛</sup>う<sup>う</sup>す<sup>す</sup>く<sup>く</sup>そ<sup>そ</sup>め<sup>め</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>き<sup>き</sup>た<sup>た</sup>り  
 け<sup>希</sup>る<sup>可</sup>か<sup>可</sup>な  
 う<sup>多</sup>ら<sup>多</sup>み<sup>多</sup>給<sup>給</sup>へ<sup>へ</sup>ば  
 た<sup>多</sup>び<sup>多</sup>た<sup>多</sup>び<sup>多</sup>返<sup>返</sup>事<sup>事</sup>き<sup>き</sup>こ<sup>こ</sup>え<sup>え</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>を

締切り 二月二十二日 (必着)

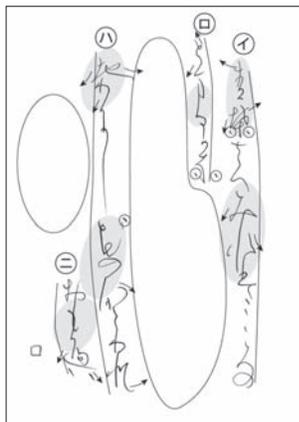
築瀬舟香書



青葉<sup>み</sup>さへ見<sup>盤</sup>れば心<sup>こ</sup>のと<sup>万</sup>まる<sup>可</sup>かな  
 散<sup>地</sup>りに<sup>利</sup>し花<sup>那</sup>の名<sup>利</sup>残り<sup>登</sup>と思<sup>お</sup>へば<sup>通</sup>

〔歌意〕 すっかり散ってしまった桜の名残りを惜しんでいると、葉桜となつたその青葉にさえも心がひかれることだよ。

〔出典〕 山家集  
〔解説〕



- ①と②、①と③、②と④、③と④それぞれ呼応。
- ②と④の間の余白大切。
- 行の密、∨ 指向性、○ 点の位置大切。

◆ 3月課題予告

今日<sup>け</sup>のみと思<sup>ふ</sup>へばながき春の日も  
 ほどなく暮<sup>る</sup>るる心地こそすれ

締切り 2月22日(必着)

お変わりなくお過ごししの御事と存じます。先週、武蔵野を旅したおりに風雅な水滴に出合いました。先生の机上の仲間たちとピツタリではと思います、早速お送りします。お供にいかがでしょうか。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題はがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

お変わりなくお過ごししの御事と存じます。先週、武蔵野を旅したおりに風雅な水滴に出合いました。先生の机上の仲間たちとピツタリではと思います、早速お送りします。お供にいかがでしょうか。

横 書 き 課 題

お 尾 郷 翠 光 書

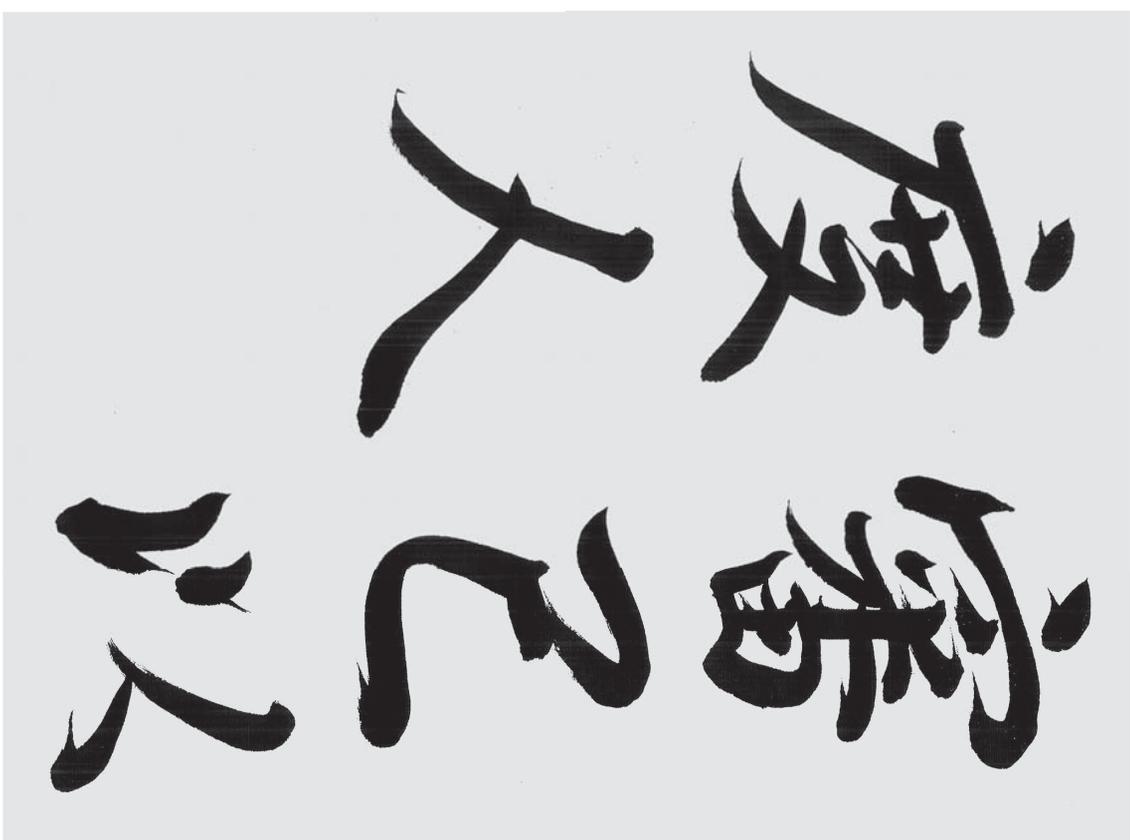
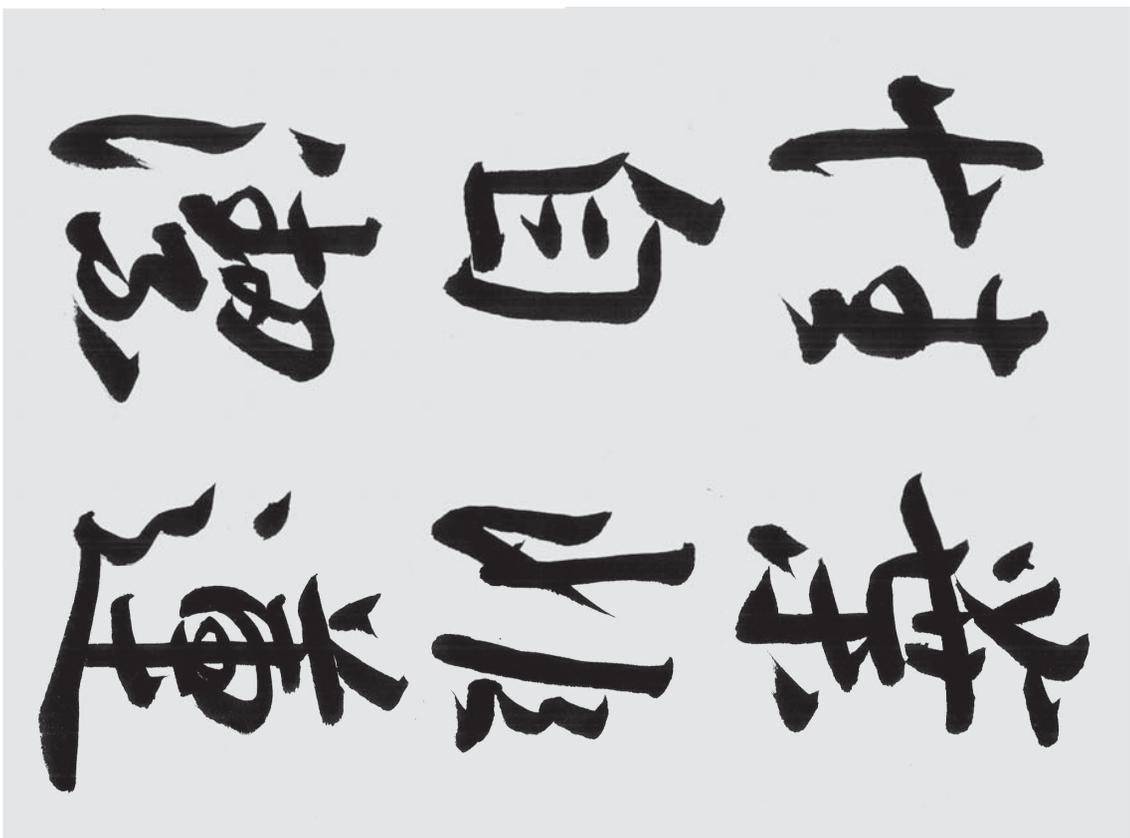
立春は現在の暦では2月4~5日頃で、旧暦のほぼ元旦にあたる。

静岡県浜松市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 2月22日(必着)



準初段から師範まで

新人から1級まで(行書)

奥村暢之臨

須田一葉書

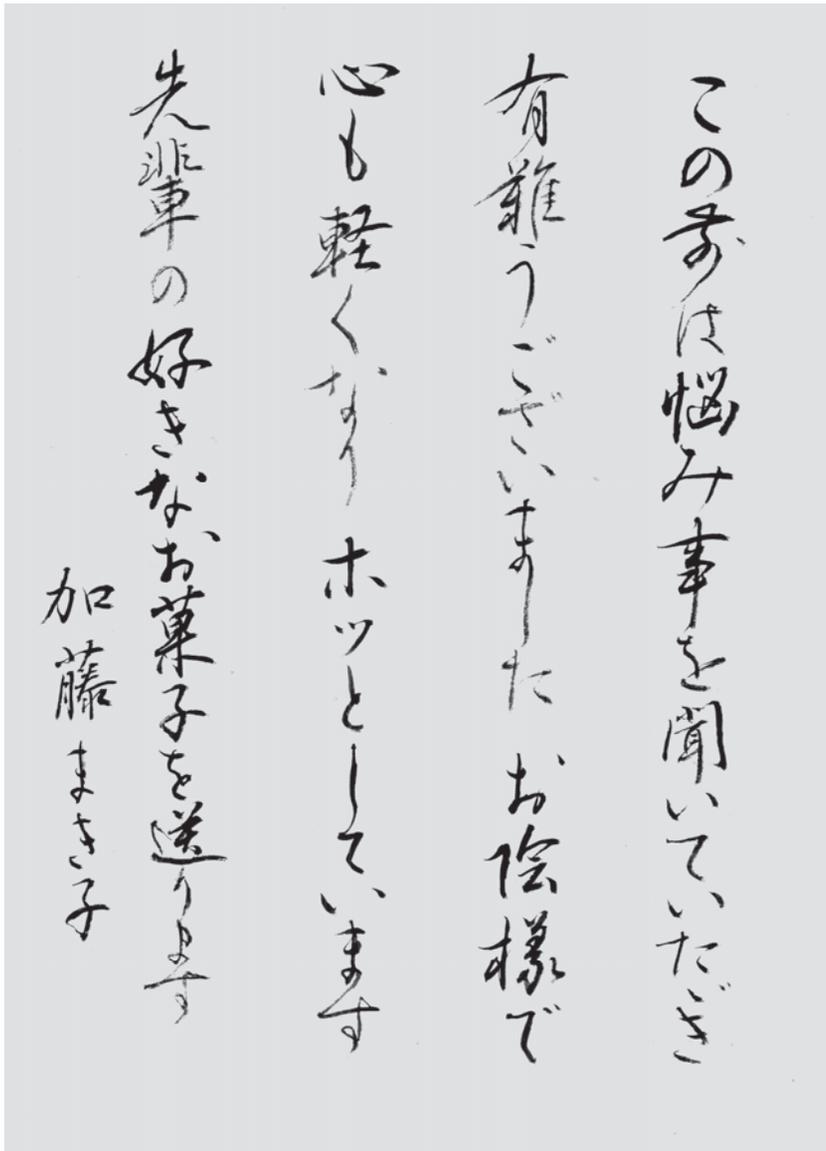
[出典] 集字聖教序(672) [筆者] 王羲之法書より集字  
 [読み] 葉を(汚す能わざるがごとし。)蓮の性の自ずから潔く、

[読み] 己を審らかにして以て人を度る  
 [大意] 自分の身にひきかえてよく考え、人の気持ちをおしはかる。



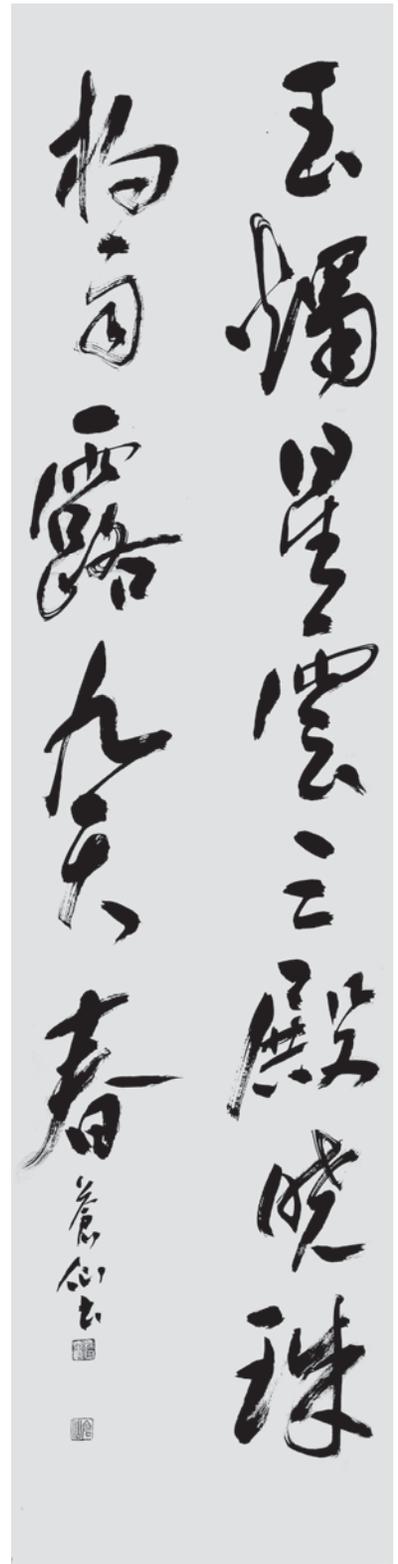
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

書 華 玲 田 樋



締切り 二月二十二日 (必着) 半切 (一三六 cm × 三五 cm)

書 仙 蒼 田 荻

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

・印で墨つきしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

この前は悩み事を聞いていただき有難うございました。お陰様で心も軽くなり、ホッとしております。先輩の好きなお菓子を送ります。(ご自分の氏名)

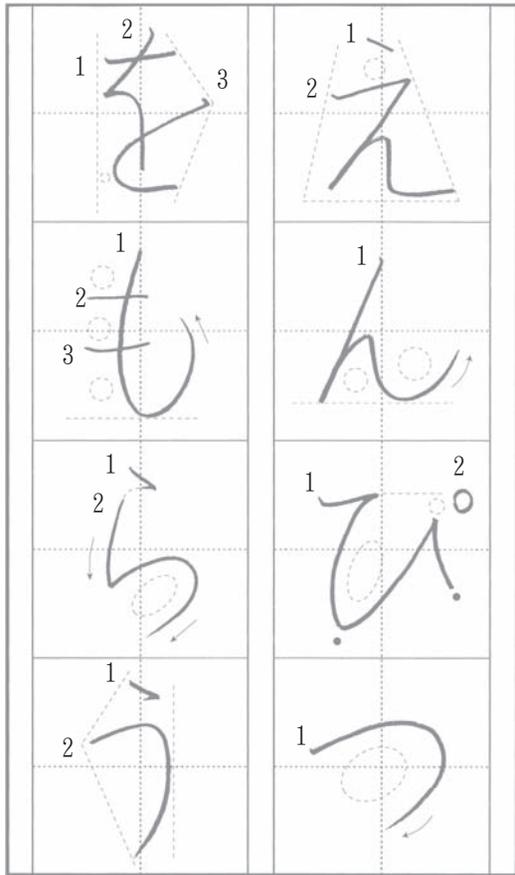
〔条幅解説〕書道は筆の使い方次第で、強い、弱い、温かい、渋い、鈍い：様々な多様な線表現が可能です。その線の表情は起筆と深い関係があります。書道は線です。日本芸術院賞の師から、「私の手本を見てもあかん。私の書きぶりをみることに」と教わりました。筆の微妙は見えて修得する事です。

初出品の方へ  
支部名・会員番号・  
姓名・毛筆漢字成績  
を、作品左下に必ず  
お書き下さい。

〔大意〕四時の気候と調和する星雲は三殿の夜明けにあり、北斗の第五より第七に至る星の露は満空の春をなしている。

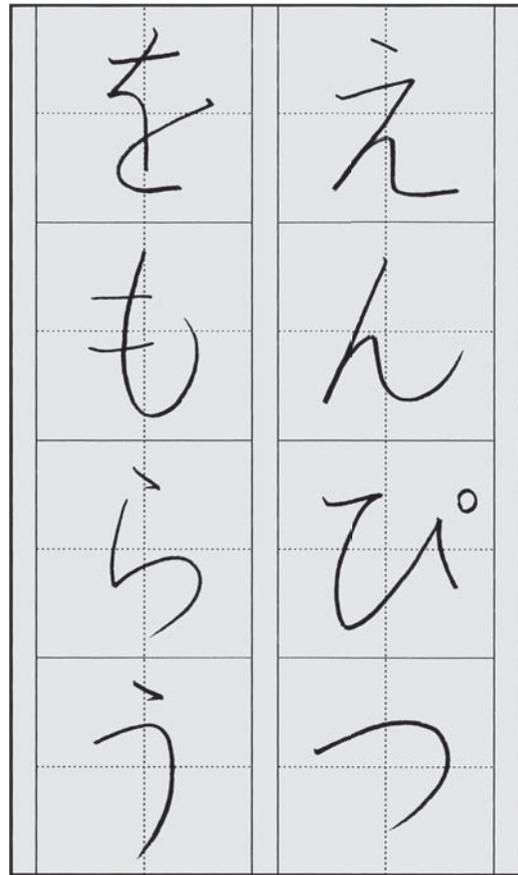
玉燭星雲三殿 曉珠  
趙 國 北

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



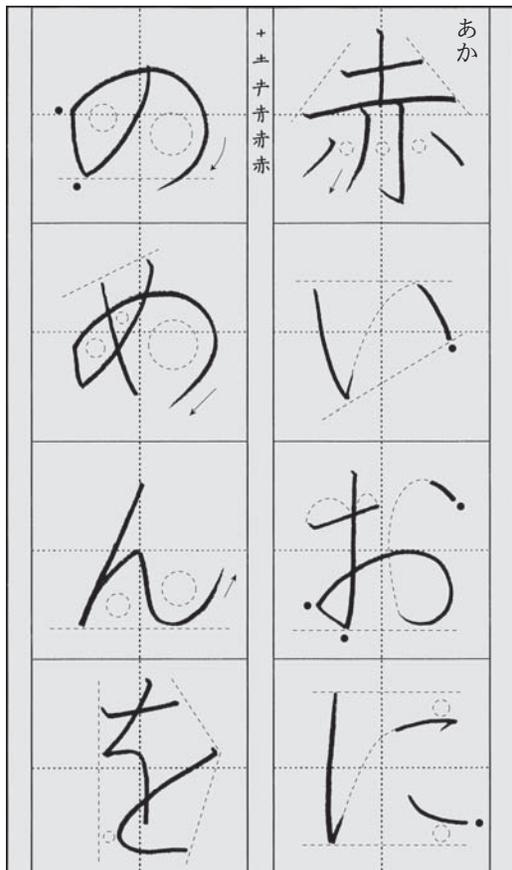
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



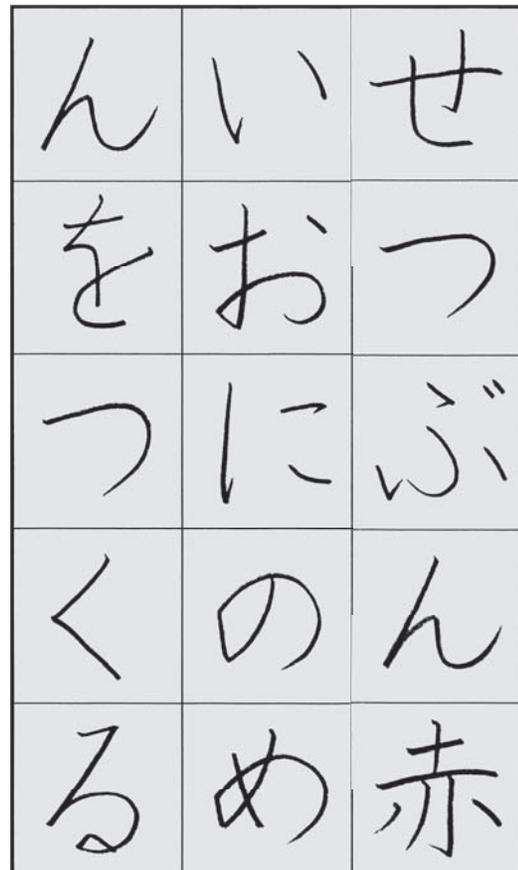
よ  
う  
年

幼年〜小三年まで  
三宅容玉書



新入〜1級

(注)えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小  
一  
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

ひ 一 日 日	西	にし
の	の	
山	山	やま
夕	夕	ゆう

新入〜1級

日	西	外
が	の	を
し	山	見
ず	に	る
む	夕	と

準初段以上

小二年

準初段以上

宿	宿	シユク
題	題	ダイ
で	で	
詩	詩	シ

新入〜1級

詩	に	宿
を	つ	題
考	い	で
え	て	家
る	の	族

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具 自由 (黒色に限る)〉

貝	かい	博	ハク
物	ブツ	館	カン
化	カ	館	カン
石	セキ	で	

新入1級

化	明	博
石	聞	物
を	き	館
見	貝	で
る	の	説

小四年

準初段以上

小四年以上  
岡嶋桂川書

打	う(ち)	人	ジン
上	あ(げ)	工	コウ
計	ケイ	衛	エイ
画	カク	星	セイ

解説(よく見て習いましょう)

を	ち	人
実	上	工
行	げ	衛
し	計	星
た	画	打

小五年

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

(全員)

〈用鼻 自由 (黒色に限る)〉

ノ 一 二 三 毎	マイ 毎	ガッ 学
ノ 一 二 三 月	つき 月	キユウ 級
ノ 一 二 三 冊	サツ 冊	ツウ 通
ノ 一 二 三 推	スイ 推	シン 信

解説(よく見て習いましょう)

せ	毎	学
ん	月	級
の	一	通
本	冊	信
が	推	に

小六年

(全員)

め	ち	並
公	葉	木
園	踏	道
散	み	の
策	締	落

中二・三年

(行書)

の	学	織
結	模	細
晶	様	な
で	の	幾
す	雪	何

中一年

(行書)

▼小三年以下の課題 すぎ 浦 けい 翠 書

福 <small>ふく</small>	お	豆 <small>まめ</small>	用 <small>もち</small>	お
は	に	を	意 <small>い</small>	母 <small>かあ</small>
内 <small>うち</small>	は	ま	し	さ
	外 <small>そと</small>	き	た	ん
		ま		が
		す		



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 2月22日 (必着)

習っていない漢字は  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 おお さき すい しゅう 書

白 <small>はく</small>	町 <small>まち</small>	ぼ	ふ	早 <small>そう</small>
銀 <small>ぎん</small>	の	た	り	朝 <small>ちよう</small>
の	景 <small>け</small>	ん	始 <small>はじ</small>	か
世 <small>せ</small>	色 <small>しき</small>	雪 <small>ゆき</small>	め	ら
界 <small>かい</small>	を	は	た	
に				

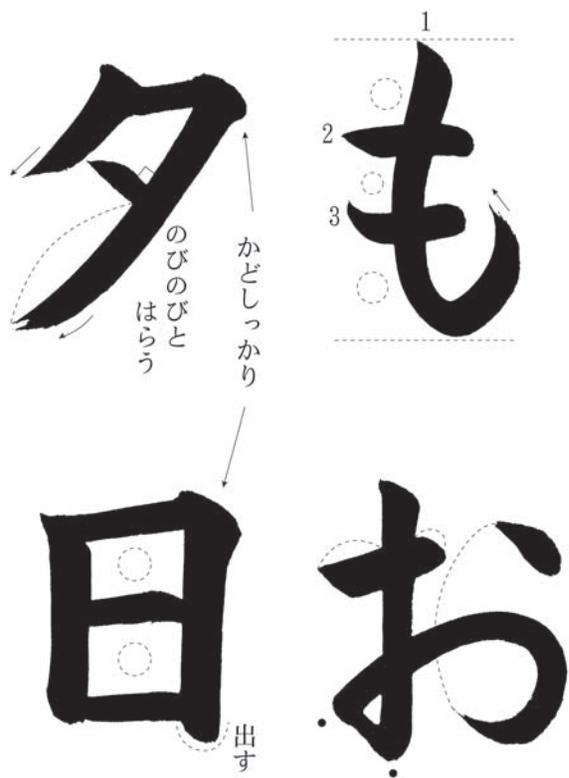


◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





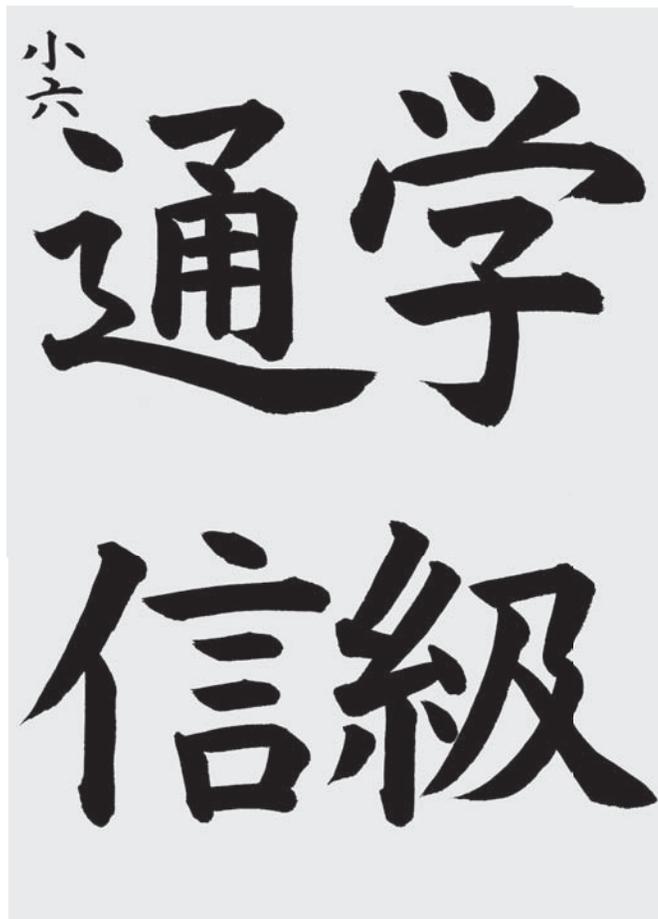
小五  
 計画  
 実行

考  
 える  
 小三

中心  
 のびのび長く  
 石画実  
 考る貝

小四  
 貝  
 の  
 化石

小三〜小五年  
 水野香竹書



小六(中二・三年)

奥村暢之書

